伯剌西爾時報

發行所 伯剌西爾時報社
電話 七・四六七〇
社長 鮫石鋼作
Director M Sameshima
購讀料 一ヶ年 六十衍
半ヶ年 三十衍
廣告は御照會次第御返信

珈琲
サントス四級
十キロ
リオ七級
十キロ
休日

爲替
對日
郷里送金
休日
對米
對英

千五百の獨機襲來
倫敦に焦熱地獄を現出
民主々義の殿堂國會議事堂危し

雲間に隠顕 英獨機の死闘

【倫敦九日同盟】獨軍の倫敦爆擊は九日早曉に至り、遂に倫敦の中心に集中され、午前四時頃英國民主々義の殿堂たる國會議事堂附近に盛んに爆彈が投下されてゐる、かくて八日夜七時五十分からロンドン市上空に展開された英獨空軍の死闘は今曉五時に至るも未だ止まず、實に九時間の長きに亘つて間斷なく行はれてる

寫眞 テームス河上より英國々會議事堂を臨む

【倫敦八日同盟】七日夜より八日早曉に掛けて行はれたドイツ軍のロンドン大爆擊は獨機數千五百と報ぜられ、從來に無い凄愴なるもので、英當局では死傷者は尠くとも二千名に達すると推定してゐる、尚同日の英獨空軍の損害はドイツ機の擊墜されたもの八十八機、英機の損害廿二機と發表

【ベルリン八日同盟】DNB通信社が七日のロンドン大空襲に得た戰果につき偵察機の歸還報告として報ずるところによればロンドン市內に巻き起つた火災による黒煙は、八日に至るも尚濛々としてロンドンより海峡に至る、一帶を蔽つて居ると謂はれる

【倫敦八日同盟】七日夕から八日未明にかけて、ロンドン上空に猛りかゝる獨空軍の活動は八日中に鎭まつたかに見えたが、午後七時十一分に又々猛烈な空襲が再開され、ロンドン市民を戰々兢々たらしめる獨機はスイセー爆擊機、急降下爆擊機等あらゆる機種を網羅し、ロンドンの空を覆つてるのに對し英側の高射砲陣も一齊に砲門を開きこゝを前途と奮戰してる市上空に低く垂れ罩めた暗雲に地上の火災が赤々と照り映えてるが英獨空軍はこの雲の中を出沒しつゝ死闘を重ねてる

【ロンドン九日同盟】ロンドン近郊の工場地帶に徹底的打擊を與へんとする獨空軍は、八日も朝から夕刻までに廿機乃至卅機の編隊で反覆來襲、總計三百余機に達した、

時評

攻擊は最善の防禦手段である退いて守るを思ふは既に亡國への第一歩を踏み入れたものだ、マヂノ線の背後に退いた佛國の運命は余りにも慘めな終末を告げた、守るは第二義出擊は進歩、打開の眞諦である

英機のベルリン夜間空襲に赫怒したヒットラー總統は、大ベルリンを完全に護るため、英機の空襲に十倍して報復すると言明した、その獅子吼の尚消えもやらぬ七日夜來、早くも雲の如きドイツ機の大編隊は息つく間も無くロンドン大空襲を敢行、資本民主々義の總本山ロンドン市の四分の三は硝煙に覆ひ蓋されたと報ぜられた、洵に兵法の實際に即した天晴れなゲルマン魂の發揮である

敵方英國もさる者、この儘に沈默するは名門の誇りを傷つくる位は百も承知の筈、硝煙の裡より敢然起つて大反擊に出ざる限り男が立たぬ、必ずやるだらう

斯て世界の大都市ロンドンが廢墟となるか、世界新秩序の總元締め大ベルリン市が粉碎されるか、現代戰のテンポは早い、死闘中の死闘とも言ひ得る大戰闘の幕は切つて落された、勝負は案外早く片づきそうな雲行きとなつた

英の反擊振りこそ世界視聽の集まる處である

◇

◇

死傷者千三、四百名
市民の士氣沮喪せず

英側發表

【ロンドン八日同盟】英空軍省治安省共同發表

一、七日夕刻ドイツ空軍は大擧ロンドンを空襲、引き續いて夜を徹して小規模の空襲を試み來つた、爆擊の範圍は廣範圍に亘り、目標は無差別であつた、損害は甚大であるが、軍事的には特に重大視すべきものは無かつた

一、敵の攻擊は主として市の東方テームス河兩岸に集中され、特に河岸近くでは三ヶ所より大火災を起し、その他數ヶ所でも火を發した

一、この地區の損害は最も大きく多數の市民は住宅を失つたが直ちに安全地帶に收容した

一、又同地域に在るガス、水道等の公共事業もその機能に障害を生じた、ロンドン港のドックにも多數爆彈が投下され、テームス南岸のドックからは大火災が起つた、その他倉庫、曳船等にも相當の損害があつた

一、ロンドン市のその他の地區にも多數の爆彈が投下され、市の南部では學校二校が損傷し、中央部では大火災が起つた、家屋の倒潰したもの各地區に及んでゐる

一、死傷者數は未だ判然とせぬが、大體死傷者は四百名、重傷者は千三百乃至千四百名にも上るものと豫想されてゐる、然もドイツ軍のこの挑戰にも拘らず、市民の士氣はいさゝかも沮喪してゐない

故北白川宮永久王殿下御葬儀
十八日豊島岡で御執行

【東京九日同盟】故北白川宮永久王殿下の御墓所は豊島ケ岡と決定來る十八日嚴かに御葬儀を取り行はせらるゝ旨、八日宮內省より發表された

御喪主は石川別當

【東京九日同盟】故北白川宮永久王殿下の御葬儀に就き、道久王殿下は御幼少のため、別當石川漣平氏に御喪主の事を行ふべき旨、仰せつけられた

本土の孤立と英の戰爭實力檢討（下）

ドイツの對英作戰の重要な一側面は、孤立英國に對する經濟封鎖である、イギリスの食料、原料に於る海外依存は何れの强國よりも甚だしい、たとへば一九三四―三六年の平均についてみると、穀物八七%、肉類五〇%、脂肪八九%、チーズ七〇%、卵三五%砂糖七四%、茶コーヒー一〇〇%、飼料穀物六七、油糟等九六%の海外依存率を示し僅に馬鈴薯、乳魚類について自給に近いのみである、もとより國內生產の增加の努力もこの缺陷を本質的に改めることは出來ない、また原料品に於ては、石炭を除いて鐵鑛石油、ゴム、纖維原料、木材等をはじめ、總ゆる品目に於る强度の海外依存は周知のところである、第一次大戰に於るドイツの潜水艦による對英封鎖の大要は、初めにふれた如くであるが、殊に今回はドイツが遙に有利な作戰基地を有してゐること、英國が歐洲大陸との近海ルートを利用する可能性を失つてゐることドイツは更に有力なる空軍によつて、商船のみならず港灣施設、ドック等陸上をも襲ひ得る事等によつて、或は遙かに恐るべき效果を生ずる事が豫想される、それは恐らく今迄のイギリス側の反擊を手痛く粉碎して、はるかに前大戰以上の效果を收めるかもしれない、然し依然としてそれだけでは、英國の屈服をもたらし得るとは考へられず、況や短期に屈服せしめる事は出來ない、歐洲大陸の制覇がドイツの長期戰能力を强化したとはいへ、やはり長期戰化に從つて占領したストックは消費され、次で各國經濟固有の原料上の困難が、却つてドイツ戰時經濟を壓迫する可能性が考へられる、ドイツは依然として其の壓倒的な戰力を驅使して速戰即決を望むであらう勿論この場合英本土に對する强襲と併んで、海上及び英帝國ルートの致命點、殊に地中海に對する攻擊の强化を妨げないが、濠洋作戰の掩護の爲めに其の海上勢力を極度に集中利用する事も必要であらう作戰の純軍事的側面については窺知し得る限りでないが、最近の經驗から對英作戰の見透しをたてるとすれば、少く共西部戰線の結果と並んで、また北歐作戰の經驗を顧みるべきであらう、北歐作戰に於る英佛の失敗は、單に海軍に對する空軍の勝利といふのみではなく、更にドイツ側が遙かに周到に準備し、作戰上の利益を完全に利用して、優勢な勢力を急速に派遣したことにあるやうに思はれる、英佛側は獨逸側に比してその兵數裝備に於て比較にならず、重火器、戰車、飛行機を殆ど持たなかつたといはれる、勿論英本土の抵抗はノルウエーのそれとは比較にならないであらう、いふまでもなく依然として殘留する英艦隊を、一時的なり共無力化する事が必要な前提である、對英作戰の實施迄には、今しばらく準備の時を費さねばならぬのではないか、或は伊太利をしてジブラルタルを攻略せしめて地中海の入口を制し、對英作戰の據點を整備し、占領資材の完全な利用を可能ならしめ、機材、彈藥、糧食を集積し、電擊戰開始となるやも計られず積極的に壓倒的に大規模に戰ひ抜く用意を整へてゐるが如くである、乍併九月七日八日兩日に亘る獨空軍の英國爆擊は極めて猛烈なものであり、倫敦の如きは窒息されるのではないかとも思はれる位である、英は壞滅か逃避かその一を選ぶの日が今や迫りつゝあるのは否定出來ない

ソ聯、瑞典通商協定成立

【モスクワ八日同盟】ソ聯政府はスエーデンとの間に通商協定を締結八日調印を了した

黒煙濛々最後の日偲ぶ

【ベルリン八日同盟】DNB通信社が七日のロンドン大空襲戰果偵察機の歸還報告として報ずるところによれば、七日の空襲で巻起つたロンドン一帶の黒煙は八日に至るも尚濛々とロンドンより海峡に至る一帶を蔽ひ、殊にロンドン市上空では地上からすさまじい勢で黒煙がモク〳〵と昇つてゐるのが目擊され、正にロンドン最後の日を思はせる凄慘な光景を呈してゐる、次いで北方に方向を轉じて黒煙はテームス河口一面を蔽ひ風の間に間に漂つて遂には海峡を渡つて對岸のフランドル海岸にまで棚曳いて居り、夜間にはフランドルの海岸から英海岸の各地の燃え盛る大火が手に取る如く見えたと謂はれる

北海から
獨、對英上陸作戰？

【紐育八日同盟】エービー伯林電は確かなる筋の情報として報ずる所に依れば七日夕刻ロンドンを大擧空襲した獨機はデンマーク、ノルウエー、北フランス、ベルギー、オランダ等獨逸の各基地から一齊に飛び出したものだと傳へられ、右に關し消息通筋ではノルウエー、デンマーク、ベルギーの各地を對英空襲に使用された點に特に關心を抱き、恐らく北海からの對英上陸作戰の前觸を爲すものでは無いかとこれを重視してる

佛印と日本に協定成立

O accordo entre a França e o Japão, na Indo-China

東京より支那國境へ
日本軍の通過を許す

【上海九日同盟】當市ユーピー電の報ずる當局發表によれば、佛國政府と日本政府との間に佛領印度支那問題につき協定が成立した、その結果佛國側は東京地方より支那國境へ日本軍の通過を許可することになつた

電擊上陸は
九月下旬か十月初旬

【ローマ六日同盟】去る四日のヒットラー總統の强硬演說により獨軍の對英總攻擊が近き將來必ず行はれるとの觀測が俄然有力化して來たが、六日當地伊太利官邊筋では獨伊兩軍の對英總攻擊が間近かにありとし、今や全線に亘つて攻擊準備は着々進捗を見せて居り、殊にビスケー灣からノルウエーに至る獨軍全線は現在電擊戰開始の準備を全く完了してると述べ注目をひいてゐる、而して右電擊戰開始の時期に關しては一般に九月下旬乃至は十月初旬が絶好の期であるとする說が有力である

伊機マルタ島痛爆
潜水艦に致命傷與ふ

【羅馬八日同盟】イタリア軍司令部發表

一、イタリア潜水艦は、ジブラルタル海峡附近に於て、敵掃海艇一隻を擊沈した

一、空軍部隊はマルタ島を空襲造船所に爆彈の雨を降らせ入渠中の潜水艦に命中彈を加へ、其の際邀擊せる敵戰闘機部隊と交戰、其の二機を擊墜、他の一機にも致命的損害を與へた

一、領海に於て敵護送船團を發見痛爆を加へた

東京
爲替
東京爲替廿七弗十六の七、三十二十五、二片二の一
ノミナル、正金三弗十八の七

ゲーリング元帥陣頭に立ち
ロンドン空襲を指揮

【伯林八日同盟】獨軍司令部では今次の對英空襲に際し、ゲーリング獨逸元帥は自ら北フランス某地點に出動、これが指揮に當つてると發表した

【伯林八日同盟】ゲーリング獨逸元帥は、八日午後北フランス某基地からラヂオを通じ全國民に對して、獨空軍のロンドン空襲開始に就き左の如く呼びかけた

獨逸は英國の諸軍事目的物並に非戰闘員に對する無差別爆擊の承服手段として英首都ロンドンに對し、大空襲を敢行する事となつた、余は特にヒットラー總統の命を受け、自ら北フランス某基地に赴いて、こゝから作戰を指揮するものである

ウエーガン將軍アフリカ軍總司令官となる
佛內閣の一部改造斷行

【ビッシー六日同盟】ペタン佛國政府首席は佛領アフリカ植民地の不穏化に鑑み、六日國防相ウエーガン將軍をアフリカ軍總司令官に任じ同方面に於ける軍事並に政治上の一切の全權を總帥せしめるに決した、尚これに伴ひ內閣の一部改造を斷行、內相にマルセルペルートン、產業勞働相にルネベラン、陸相にシャルルカンヂジエ大將が新任された

ルーマニア皇帝全財產を沒收さる
米貨に評價數百萬ドル

【ブカレスト八日同盟】アントネスコ首相は、七日ルーマニア前國王カロル二世の土地財產全部を國家に沒收する旨の命令を發した、沒收の財產は米貨にして數百万ドルと評價されてる

パミール高原橫斷
ソ聯南進道路完成

【モスクワ七日同盟】ソ聯政府は南進政策の動脈として、去る五月以來タヂキスタン首府スターリンバッドよりパミール高原の南麓を橫切つてアフガニスタンとの國境ホログに至る道路を（延長六百六十キロ）建設中であつたが、最近完成を見た

電擊

◆カロル・ルーマニヤ前皇帝才色拔群の夫人携へスイスへお旅立ち、寒くなつたから暖い南の國へ羨山しいことです

◆英國へ渡した驅逐艦中一隻ボストンで怪火を發し大損傷代金は現金受取濟、米國は少しも心配ない由

◈四川に居堪まらぬ漢民族が西還を開始した

◆ロンドン空襲にイタリア機も參加、實に愉快だと大喜び

◆背の君前ルーマニア皇帝に今度こそ愛憎をつかしヘレナ皇后寂しく生國ギリシヤへ向はる、悲劇「前ルーマニア皇后」の上演も遠くないだらう

◆バルト海のソ聯海軍演習終了、何をやつたんだい

◆パラグアイ大統領閣下、飛行機事故のため突然逝去、元首は一刻も空席許さず哀悼の裡に陸相マリニゴ將軍が登極された、我等も深く哀悼の意を表し、新元首の下友邦の前途多幸を祈る

◆全紅海はイタリアの制壓下に入つた由結構です

あばれ大名（講談映畫化）

久我荘多郎作
金森秀雄畫

（百九十七）

（瀨戸の卷）

相寄る水（三ノ二）

「ふウむ――しかし、返事のねえのが可笑しいが……」

「も一度怒鳴つてみよう。―おい、誰も居らんのか。住職！住職」

「ちえッ、面倒くせえ！」

平馬は噛んで吐き出したいら〳〵してゐるところである

「踏み込んぢまへ」

さういふと、われから眞先に、土足のまゝで式台を驅けあがつた

この時――一方、庫裡の方へ、二三の捕手と一緒に驅け廻つてゐた鱗七が、何か奇蹟でも見つけたやうに

「ヤッ、足痕がある。こゝにこんなに足痕が――」

と、寺中にひゞくやうな聲で叫んだ

「なんだ、足痕が？」

聞き咎めた平馬たち、鏡のやうに拭きみがいてある廻廊を、聲の方へ向つた

「どこだ？どこに――」

「こゝですよ、旦那」

「うむ。これは……」

提灯の灯でみると、まさに廻廊の床には、それと覺しき足痕が幾つも亂れつゞいてゐる

「違ひねえ。大三郎たちはてつきり、方丈の裏庭からはいつて、この奥へ隱れたんだ」

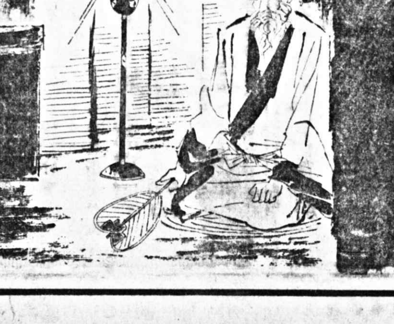
「奥といふと――あれア、經藏ですぜ」

「あ、あの扉がすこし隙いてゐる」

「行つてみませう」

「うむ、よからう。――ぢやあとは、この閣闇を油斷なく張り込むんだ」

平馬は、四五人の武士たちと倶に、橫廊下を越してその突き當りに見える、鐵扉のやうな欅の厚い扉の前に立つた



なるほど、二寸ばかり隙いてみえる

そこから、そつと內部をのぞき込むと、洞然たる暗黒のなかに、一つの燈火が立つてゐた。氣のせゐか、その裸火はユラ〳〵と明滅して、何かに恐れ慄へてゐるやうに見えた

「――ゐる。たしかにゐる」

唾をのんで、平馬が呻くやうに囁くと

「それツ！」

と侍たち、一齊に重い扉へ片手をかけ、グワラリッと引いた

とたんである

「誰だッ！」

と、怒るやうな猛吼が、反射的に響いて、風のやうに飛んで來た

「やッ……」

これは、思ひがけなかつた、そんな聲が聞えるとは、豫期してゐなかつたから、平馬たちは躊りこんだ足を、ギクッとすくめて

「曲者は――曲者はどうした？」

「なに、曲者？」

聲の主は、おうむ返しにするのである

この經藏の中には、四方の床から天井まで、幾万卷とも數知れぬ古書が積上げてあつた。そしてその高い楪の棚へは、書架梯が掛てあつて、蜘蛛の巢らしいものが、一穗の燈火のあかりを受けて、虹色にキラ〳〵光つてゐるさま、

「曲者？――曲者とはなんぢや」

と、螺鈿のやうに氣味惡く光る目をあげて、ぢいッと、平馬たちの影を睨めまはしてゐる人物は――山塲の老精のやうに、銀の眉と長い白髯に顏を埋めた老僧である。頭に朽葉色の頭巾をかぶつて、明國風の長い法衣を着てゐるそれは一目で黄檗僧と知れた。

歩武堂々一億民の大行進

今ぞ！全國民奮起の秋

新政治體制・綱領、組織規約要綱全文發表さる

一丸火の玉

【東京九日同盟】新政治體制の綱領、組織規約要綱案は五日の常任幹事會で決定を見、六日の閣議に報告、諒解を求め、同日の第三回準備會に提示したがその全文は左の通り公表された

綱領草案

一、八紘一宇の皇謨に本づき東亞の新秩序を建設し、以て世界平和の確立に寄與せむ事を期す

一、國體の本義に本づき舊來の積弊を芟除し庶民を一新し、國家の總力を發揮し以て國防國家體制の完成を期す

一、官民各々その職分に奉公し、和衷戮力以て大政翼贊の臣道を全ふせむ事を期す

規約要綱案

第一、本會は（名稱未定）と稱すること

第二、本會は萬民翼贊、國民組織の確立を指導促進するを以て目的とする事

第三、會員は會綱領を體得し之が實踐に當るものを以て構成すること

第四、本會は中央本部を東京に置く事

第五、本會に左の役員を置く事

總裁一名、副總裁一名、顧問若干名、總務若干名（内若干名を常任とする事）

總裁　内閣總理大臣の職にあるもの之に當る事

副總裁、顧問及び總務は總裁の指命による事

第六、總裁は本會を指導統率する事

第七、副總裁は、總裁を輔け必要ある時は總裁を代理する事

第八、顧問は總裁の諮問に答ふる事

第九、總務は總裁を輔け、本會に關する重要事項を審議する事、常任總務は會務を擔當する事

第十、中央本部の事務を處理するため、事務局を置き、之を左の十一部に分つ事、總務部、政策部、組織部、議會部、經濟部、文化部、青年部、訓練部、國民生活指導部、宣傳部、東亞部、中央本部

副總裁として

有馬、末次兩氏呼聲高し

【東京九日同盟】新體制運動は今週一杯に組織案の決定を見、愈々本組織結成に乘り出す段取りとなつたので首相は目下中央本部の核心たる副總裁、中央本部長並に總務の人選につき鋭意熟考中である、目下の所では副總裁には有馬賴寧伯、末次信正大將の二人が有力視されてゐる

小委員會を組織し成案を調整處理

常任幹事會の難かしい組織案に首相の斷

【東京七日同盟】新體制準備會は審議三回にして新體制建設組織大綱規約及び綱領などに關する建設論を續け、審議も大體完了に近づいて來たが組織論に於て未だ歸一するに至らず、此のまゝ審議を續行しても徒らに時日を經過するだけであるとの建前から一應各準備委員の表明せる意見を取り纏め、近衞首相の主義統制に便ならしむべく、新たに小委員會を設置し、常任幹事會成案の修正意見を調整處理せしむる事となり、近衞首相は一兩日中に約十名の正式委員を指名選任し、準備會第四回會議前の來る九日に第一回小委員會を開き、常任幹事も此に加はり愼重組織案その他の最後的練り直しを行ふ事になつたが、新組織大綱は恐らく中央本部と國民協力會議の二本建の幹事會議案は放棄せられ、然も中央本部系統だけの一本建ともならず、結局折衷的な國民協力會議を中央本部に招集せしめ、一般の見解を纏めるものと豫想される

而して近衞首相以下幹事側としては新體制組織準備に論議を續けるべきであるとの考へ方を取つてゐるもの〻、新體制氣運は之を許さざる情勢にあるので、尠くとも本月中には審議を完了して新體制確立への實直指導體たる中央本部の委員を指名の上、最高中央部の陣容を整へ度き意向のやうである

增收の春蠶種繭高

【東京九日同盟】農林省發表に依る本年度春蠶種繭高は數量四三八六七、九八一貫、價格五〇〇四九九、四七一円で前三ケ年平均高に比すれば數量四厘、價格七割九分二厘の各增となつてゐる

"ニコライ堂の旋風"

傳統をかなぐり捨て純日本的宗教團體へ

【東京九日同盟】神田駿河台に聳え立つニコライ堂を本據とする日本キリスト聖教會では、曩にモスクワ教權とは一切關係なしと聲明し、今回三十三年の長き間主教の地位に在つたセルギー氏も自發的に引退し、一切の實權を同會教師石澤丙吉氏に讓つたので、同會は今後總て純日本的宗教團體として更生することゝなつた

外務省第三次異動

駐ソ大使に建川中將

其他大公使級の異動内定

【東京九日同盟】外交の根本的刷新を機として外務陣容の建直しに乘り出した松岡外相は曩に大公使以下四十名に歸朝命令を發すると同時に、これが後任補充その他の異動につき人選を進め、決定の分を再度に亘つて發令したが、更に今回第三次異動として、左の如く内定を見たので、近く發令する事になつた

陸軍中將　建川　美次

駐ソ大使へ

特命全權公使　栗原　正

駐トルコ大使へ

歐亞局長　西原　秋彥

特派公使としてソ聯邦へ出張を命ず

アメリカ局長　吉澤清次郎

駐カナダ公使へ

大使館參事官　阪本瑞男

歐亞局長へ、歸朝まで大橋次官心得が代理する

公使館一等書記官　寺崎　太郎

アメリカ局長へ

儀典課長　鈴木　九萬

駐エヂプト公使へ

文書課長　昌谷　忠

駐フィンランド公使

東亞局第一課長　田尻　愛義

大使館參事官南京へ

調査部第一課長　重松　宣雄

文書課長へ

大使館一等書記官　太田　一郎

東亞局第一課長へ

人事課長　門脇　季光

儀典課長代理へ

支那方面艦隊報道部發表

【上海九日同盟】支那方面艦隊報道部發表

一、海軍航空部隊は、昨八日金華東方十一哩の地點に於て、軍用倉庫五棟及び同倉庫周邊に集積しありしドラム罐約二百を爆碎炎上せしめ、更に湘潭驛構内の貨車及び貨物群並に江岸荷揚げ場附近の貨物に巨彈を浴びせ、これを灰燼に歸せしめた他、同驛線路數箇所を直擊彈により爆碎切斷せり

二、昨八日沿岸封鎖中の我が艦艇の一部は、象山灣内に遁入せんとする敵ジャンク小艇等四を擊沈せり

三、目下揚子江下流地域警戒中の我が江上艦艇は、陸軍及び綏靖部隊と緊密なる協力の下に高郵湖方面の敵を掃蕩中なり

◎建川將軍の駐ソ大使轉出は最近出色の人事だ、ソ聯がアグレマンを出せば愈々出でゝ愈々興味一二〇%

◎南阿も、印度も一切の外界と切斷された、何をやつてゐるやら…

◎香港に未だに英人が居るから不思議である、支那人さへ見棄てた場所だがなア

◎佛印國境を犯したのは支那だと佛印から發表、いや佛印側から侵入したと支那側で發表、何だか譯が判らんぞ

◎白熊がパミール高原に現れ印度に涼風を送る

◎米國、南太平洋睨んで虎視耽々吾等の松岡さんぬかるな

社告

謹啓　時下益々御清祥之段奉賀候　陳者弊社各外交員を頭書の地に差向け居り候間宜敷く御配慮の程御願申上候

○聖市市内　菊地鐵彌

○マリア、ペラクルース、ジャフア、ガリヤ、フエルナンデア方面　本多　彬　本多　聖

○ロンドリーナ、ノーバダンチッヒ、ローランヂヤ方面　木村彥重

○ア・マッシャード、ア・ブルデンテ、マルチノポリス、インヂアナ方面　茂木源太郎

○コルネリオ・プロコピオ、バンデイランテス、サンタ・マリアナ方面　高橋朝太郎

○チエテ、バルパライソ、ヨランドポリス、アリアンサ方面　田代重守　中村滿志

○チピリッサ、ピラヂュイ、グワランタン、カフエランヂヤ方面　久保田勝喜

○中央線　渡部兵吉

○アララクアラ線、サンパウロゴヤス線、トラデンセ線方面　子供の園專屬　棟形　昇

○S.P.R線　聖市近郊方面　柳沼爲四郎

○リオ・デ・ジャネーロ方面　中川忠吉

伯剌西爾時報社

超短波

金の强制買上

金の强制買上げに關し九日午前十時より帝國ホテルに會議を開催、政府は國民に隨時金の賣却を命じ得る事となつた

右に關し大藏省では近く規定を公布實施する事になつたが、違反者は五千円以下の罰金に課せられる事に決定した

公定價格金製品一瓦三円八十五錢

第四回報國債券

第四回報國債券八千万円が明十日から全國一齊に賣り出される事になつた

抽籤日　十一月一日

十円券　一等　一万円

五円券　一等　五十円

目方賣りを實施

鰻に鯖、アジ、鰯など魚の値段を公定季節的に値段が左右されぬやう、年中一本立で行く事になり又從來の如く一尾幾何と云ふので無しに、目方賣りに改正されたが、今度野菜、果物も公定價格が定められ、目方賣りを實施する事になつた

船舶擊沈數

獨海軍當局の發表に依ると戰爭勃發以來、八月末迄に判明した敵船舶の損害は七百隻（名前の判つたもの）二百七十九万九千二百三十四噸に上つてゐると向は船名の不明なものを加算すれば、四百万噸に上るのではないかと見られてゐる

防空訓練

去る一日より開始された帝都防空訓練は七日より第二期訓練に入り

空襲警報　六秒宛十回

同解除　一分間

燈火管制　避難訓練

など本格的訓練に入つた

軍歌募集

陸軍では將兵の士氣を鼓舞する爲軍歌を募集してゐる

締切　九月末日

發表　十一月十日

賞金　一等三百円　一名

〃　二等百五十円　二名

當選歌詩は陸軍戸山學校に回送され作曲される事になつてゐる

貯蓄標語

文部省では全國兒童から貯蓄獎勵の標語を募集したが、應募者一万二千六百八十二件に上り、廿四人の審査員が審査に當つた結果、九日當選者が發表された

一等　尋常一年から高等科二年生まで各年一名宛、計八名

二等　八十名

三等　八百名

合計　八百八十八名

今年は小麥の當り年

未曾有の大豊作

三府三十五縣の實收高

【東京九日同盟】農林省發表によれば、東北六縣、新潟、長野、北海道を除く、三府三十五縣の本年度小麥實收高は、一千百九十二万四千八十九石、前年に比し八歩九厘、前五ケ年平均に比し三割四歩三厘の各增加でこれに未發表地域の豫想收穫高、百十七万四千石を加算すれば一千三百九万石となり、本年度增產目標一千三百九万石を突破する未曾有の新記錄を實現することゝなる

秋蠶收繭高四割の增收

【東京九日同盟】農林省發表による本年度秋蠶收繭高は、數量四三八六七千貫、價格五〇〇四九九千円で、前三ケ年平均高に比すれば數量四厘、價格七割六歩二厘の各增しとなつてゐる

石太線の共匪一萬

我が包圍圈内におつ

死體四千二百殘して潰滅

【太原七日同盟】鐵壁の包圍陣を推し進めて共匪一万を石太線南方山岳地帶に壓縮した我が精鋭各部隊は五日朝俄然總攻擊の火蓋を切り、壯烈な殲滅戰を展開、敵匪は遺棄死體四千二百、捕虜四百を殘して潰滅し去り、こゝに同方面一帶の共匪は全く掃蕩されるに至つた

昆明の抗日西南聯合大學

西昌（西康省東南部）へ移轉決定

蔣政權の中心・彼地へ移動？

支那は西へ

【香港九日同盟】昆明の西南聯合大學は西安の西北聯合大學、重慶の中央大學など、並び稱せられ抗日學府として敎師七百餘、學生三千餘を擁してるが雲南の形勢が漸次險惡化すると共に、重慶敎育部からの再三の督促によつて近く西康省東南部西昌に移轉する事となつた、西昌は四川、西康雲南貴州、四省の略中心で氣候溫和、農產物に惠まれてをり、聯合大學の移轉は將來同地を一大商工業及び敎育都市たらしめる端緒となるのではないかと見られてるが、重慶政權西方移動の一指標として頗る注目される

行先きは？

重慶正式に遷都

香港の外人筋情報傳ふ

【東京九日同盟】朝日所報　香港に達した外人筋の情報に依れば、蔣政權は遷都を正式に發表し、重慶は西安と共に副首都となる旨を發表したとのことである

エビオス

大至急求む
職人　一名
見習　二一三名
カ細面談　當方チンツラリーア
ノベーニダ・セルソ・ガルシア九二九（ボンデ・ペニャ行）

シャカラ（一〇〇米×七五米）
住宅二軒付
格安にて讓りたし
イメケーラ在
驛まで廿分の便利な處
御照會は時報社へ

募集
職人　一、二名
見習　數名
サントアンドレ市シヤビエル・デ・トレード街一九四
チンツラリーア　ジアポネーザ
電話　四一九

貸間
食事付にてお貸し致します
シケイラ・カンポス街一三八
渡部

美術石版印刷
鹽谷實
聖市タバチンゲーラ街七八番
郵函　二五七九
電話　三一三九八〇

齒科
聖市コンデ・ド・ピニヤール一三五
ラボラトリオ・デンタリオ
岡山
午前八時より
午後八時まで

桑田齒科
ピネイロス、カルデアル
アルコヴエルデ二六五一番

PHARMAGIA IRIS
R. 11 de Agosto, 345 Tel. 3-4767 S.Paulo
一流醫家より定評ある
イリス藥局
（渡邊銃器店上隣）

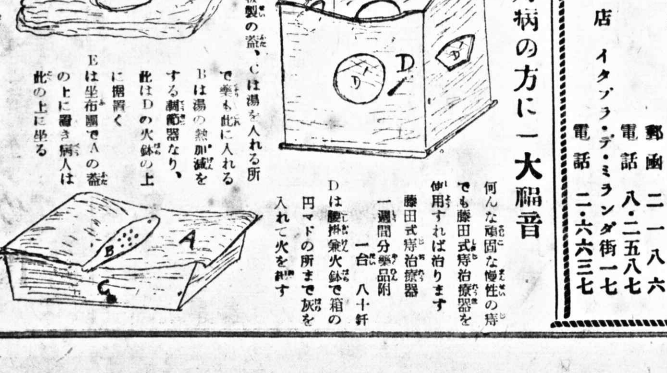
Restaurante
Caverna Paulista
R. Libero Badaró, 39
Tel. 3-2978 - S. Paulo
各種内外飲料物
宴會、婚禮には特別サービス
家族揃つて御來店の程を
晝食
夕食　七釬

銘酒
日乃本
日乃華
防腐劑絶無保證

DR. HEITOR FENICIO
Av. São João 536 6º andar sala 2
Fone 4-1188 – São Paulo
淋病
最新治療法ケタリング法を適用すれば如何なる淋病も極短期間に完全に治癒致します
廉價

KANAKAO S/A
新入荷
リオ・グランデ・マタドル肥料
英國製硫酸銅
肥料、農具
藥品、ニカワ
カナカオ化學工業株式會社
サンパウロ市テオドロ・サンパイオ街二七七六番
郵函　二一八六
電話　八・二五八七
支店　イタプラ・デ・ミランダ街一七
電話　二・六六三七

痔病の方に一大福音
何んな頑固な慢性の痔でも藤田式痔治療器を使用すれば治ります
藤田式痔治療器
一台　八十釬
一週間分藥品附



Aは亞鉛板製の蓋、Cは湯を入れる所で藥も此に入れる
Bは湯の熱加減をする調節器なり、此はDの火鉢の上に据置く
Eは坐布團でAの蓋の上に置き病人は此の上に坐る
Dは腰掛兼火鉢で箱の円マドの所まで灰を入れて火を起す
●詳細の事は御問合せ下さい
時報商事部

至急二〇家族限り募集

大アンタルチカビール會社農事部の農場機械工業化進出

あらゆる最新式の機械を完備して合理的集約農業經營の科學的栽培を最も良い條件で行ふ事になりました。

一、位置　アンタルチカ直營。パウリスタ線アウローウラ驛に三キロ
一、栽培作物。トマテ花椰菜。胡瓜。苺。ボッブ等。
一、灌漑給水其他栽培管理と必要なる一切の機械設備會社負擔
一、移轉費前貸。入植と同時に生活費前貸。一家族に付毎月三、四名のカマラーダ使用許可收穫時期には一家族八〇名の臨時カマラーダ使用可。勿論右費用半額會社負擔。
一、農產物の二等分分け
一、灌水法方　人工降雨機。自動噴撒噴霧機。
一、肥料農藥品。一千本（トマテ）使用豫算二五〇ミルレース

大体右の設備で發動物は電力百五十馬力必要に應じて馬力增加。農產物の市場運送法はアンタルチカ專用バゴンで行ふ。住宅は煉瓦作り。電燈電話あり。栽塔管理は專門的に指導、科學的栽哉に經驗技術の最高峰で行く。
又と得難い條件です、二〇家族だけです
詳細はサンパウロ市シルベイラ・マルチンス街七八番

アンタルチカ農事部專屬
鹽月脩
Rua Silveira Martins 78
Osamu Shiotsuki

沸る興奮

百錬競へるこの壯觀

サンパウロ軍輝く制覇！

雌伏二年眞紅の大旗今ぞ榮光

球史燦たり第五回全伯野球大會終る

全伯青年野球界最大至高の年中行事たる、第五回全伯邦人野球大會は地方、六豫選區より選び送られた殊玉の六球團によつて、瞬時のゆるみなき一投一捕、打棒の尖端にも全ナインの心魂が火花と散り、鍛へ上げた赤鐵の體軀と不屈の鬪志こそ、剛健、結華、明朗、球技の最高峰を描きつゝ聖市の一角カナカオ原頭に若人の熱情を盡し心魂の限りをつくして去る六、七、八の三日間に亘つて繰り展げられた、緊迫せる熱戰死鬪は日一日と高調し場に滿ちた數千のファンの興奮沸り、熱狂渦巻き、眞紅の大旆目指してひたむきな驀進をつゞけるところ灼熱の下鍛錬道場に青春は憤火して熱戰八合、遂に雌伏二年の勞報ひられて輝く凱歌は地元サンパウロ軍に擧つた

滿場肅としてたゞ感激

〝榮冠また涙あり〟

閉會式嚴肅に擧行さる

大會第三日（九月八日）午后五時地元サンパウロ軍對遠征チエテ軍の優勝戰は滿場の興奮を解いて終りを告げ凱歌は高らかにサンパウロ軍に擧がつた、過ぐる九月六日突破試合の開戰譜を奏でゝよりこゝに三日間、球衣に汗して鄕黨の聲援にこたへ皇紀二千六百年佳き年の覇者たらんと鎬を削つた六球團も、今こそ「われ人事を盡せり」の滿ち足りた感慨をもつて鉾をおさめ、勝者を先頭にチエテ軍、ア・マツシヤード軍、サ・マリアナ軍、コロネル軍、オラトリオ軍の順位をもつて中央に整列、何れも地方豫選區優勝旗を揭げ勝者を讃えんとする閉會式に臨んだ、かくて眞紅の大旆は体協副會長野村忠三郎氏よりサ軍山岸主將の手に授與された、灼熱に鍛へ熱砂に練り百戰の苦鬪つひに報はれいまぞ輝く勝利の大旆！敗者に悔なく勝者に涙あり滿場肅としてたゞ感激、次いで副賞及び各參加チームに富士屋運動具店寄贈ペナントが授與され、偉勳の打擊賞はチエテ軍宿將菊池遊擊手が獲得した、矢崎審判長の講評あつて後、會場高らかに若人の健闘と共にはためいた伯國々旗は各軍主將により除々として降下され、一同万歳を唱和してこゝに全く至純至高の第五回全伯邦人野球大會は終りを告げた

ヴァルガス大統領

米洲共同防衛を强調

【リオ・デ・ジャネーロ八日同盟】ゼツリオ・ヴァルガス大統領は七日のブラジル獨立記念日に當り、國防の急務を說く演說を行ひ、その中米洲大陸共同防衛問題に言及し米洲諸國はその獨立戰爭當時と同樣、必要に應じ各自の主權と大陸保全の爲め、軍事的聯合の可能性があると述べたが、その論旨は注目されてゐる（寫眞はゼツリオ大統領）

優勝戰

第五回全伯野球大會

小田の好投と新人の活躍にサンパウロ軍堂々勝つ！

サ 17a—8 チ

チ軍投手の不調に退く

前日コロネルを輕く一蹴した、北巴の新進サ・マリアナには意外の苦戰をしたが、これを擊破し、堂々優勝候補の貫錄を示したサンパウロ軍と二日に亘る熱戰のゝちオラトリオとソロ線の雄、マツシヤード軍をその軍門に降した前年度覇者チエテ軍とは、今年もまた奇しき因縁に結ばれて全伯ファンの視聽をあつめ、今こそ雌雄を決せんとする……サ軍宿敵チエテに復仇なるか……チエテよく王者の地位を完ふするか……喧々囂々の聲援を浴びて午后二時進藤（球）高野、山下、谷垣（壘）四氏の審判チエテ先攻によつた熱戰の幕を切つて落した

T	0	0	1	4	1	0	2	0	0	8
S	3	7	2	0	1	0	3	1	x	17A

サ軍は豫想通り先づ小田をプレートに送り守備にベストメンバー鐵補陣を張る、チ軍は小田の好調と水も漏らさぬ固い守備に一、二回無得、サ軍初回はやくも中林のヒットと好走に機を摑み、山岸、本田共に四球無球滿壘、砥上打者の時敵の牽制失に中林還へり砥上、櫻井凡退田竹（金）の放つた左中間三壘打に二者を入れて三點を擧げ、次回小田又中堅越え三壘打を放てば本鄕中林共に安打して山岸敵失に生き本田四球を得るや、チ軍ベンチ幾分の動搖、主將中島は前試合に負傷し出場不能となつてこの日ベンチより全軍を叱咤したが田口投手危しと見て辻川、赤川兩氏と協議したものゝ如くこのピンチ切り拔けに田口を退け廣田を起用したが、廣田も前回の調子出ず此の回大量七點を獻じ試合を決定したかに見えたが、三回チ軍藤川、菊池安打して齊藤四球二外ながら滿壘のチャンスを作り敵投手の牽制失に藤川還つて最初の一點を擧げたが、菊池の三壘悉走け捕手の送球に刺されて終る、その裏サ軍は二敵失と二安打に二點を加へるや、四回チ軍は敵失と二安打に四點を返へして十二對六、スコーアに差はあつてもネバリ强いチ軍の反擊は何時きまるとも知れず眈々として機を睨ふ凄さにサ軍も絕對氣を許せず、ファンまた片唾を呑んで一投一打にも心をうばはれ、カナカオ原頭風を呼んで兩雄必死の決戰は續けられたが、チ軍は五回の一點、七回二點をマークしたのみで投手の不調と失策に更に五回一點七回三點八回の一點を敵に許すに至り、得意の最終回攻擊も成らず、遂に前年築いた王者の地位をサ軍に讓るに至つた、サ軍は七回小田疲れたと見るや山岸プレートに立つて掉尾の美を收め新進の活躍と全ナイン火となつての鬪ひは雌伏二年よく制覇の實を結んだ

快速豪華船報國丸

十九日サントス入港

内外記者團を同船に招待か

日の丸も鮮やかに

國策第一級船の偉容

既報の如く日の丸船隊の威容、大阪商船が誇る國策第一級新造豪華船「報國丸」（一万五百トン）は岡山縣玉造船所造船、大阪港で船內艤裝を終り、去る七月十七日神戶港を出帆後左右兩舷に二ツづつの「日の丸」も鮮かに戰時下貿易陣の先鋒を承はり各港々で話題を提供しながら來航中であるが、愈々來る十九日サントス入港、堂々他を壓する勇姿を現す豫定である因に船長は世界一周船あふりか丸の名船長として馴染深い宮原裕氏で「アフリカ航路では世界中これ以上の豪華船はなく、斷然ブルーリボンを掌握しますよ」と自信たつぷりである

ブラジル大阪商船會社社長欠田豊次郎氏は、來る十九日處女航海の途にある報國丸がサントスに入港するので、廿日か廿一日都合を見て內外新聞記者（各社二名宛）を同船內特別室「奈良」に招待アルモツサを御馳走する計畫を立てゝゐる、尙聖市サントス間の汽車賃往復切符をも提供するとこれに就き欠田社長は次の如く語る

戰時下國策に順應して、今までのやうに必要以上の披露はせぬことになつたが、こゝ（ブラジル）は特別の事情にあるし、この前のぶらじる丸の例もあることだから全然やらぬこともどうかと思ふ、せめて報道機關の第一線に活躍してゐる記者諸君に、是非躍進日本の一端造船工業の粹の一部でも窺ひ知ることが出來れば幸ひと思ひ、强いてお招きする次第である

雜記帖

◇カンピーナス市立劇場十周年記念の爲め、昨日九日（月曜）聖市々立劇場で開演中の長谷川敏子孃は同劇場へ乘込みお蝶夫人を公演した

◇一九三〇年リオからモンテビデオまで自動車で走破したアメリコ・ネツト氏け、今度はサンパウロを出發點としリオ、ミナス、バイヤ、セルジペ、アラゴアス、ペルナンブコ、パライバ、リオ・グランデ・ド・ノルテ各州を通過しセアラ州の首府フオルタレーザ市まで六千六百粁を自轉車で走る事になり、けさ九時市立劇場を出發した

◇聖州タツイ郡のアグア・ブランカのペドロ・カマルゴ氏の牧場で去る五日牝牛が產氣づき、產み落した犢牛は頭が二つあり約六時間生きたゞけで死亡した、二ツ頭の牛は珍らしいので見物人の山を築した

◇去る八日の日曜日午前九時頃聖市郊外サント・アマーロの上村俊明氏宅の井戸端で遊んでゐた明夫君（二才）どうしたはずみか井戸に落ち直ちに救ひ上げたが水を多量に飲んだ爲め、手の施しやうがなく遂に死亡した

◇聖市第一のバナナの大產地ジユキヤ線のバナナ生產は本年は大旱魃の影響を受け例年に比し約壹割九分の減收であるが、近時アルゼンチン方面の需要漸增の爲めサントス出帆山下汽船其他の船便にて每航海同地向出荷相當數に上ぼり昨今バナナ生產業者は何れもほくほくの態

◇奥ソロ一帶は相變らず打續く大干照りに乾燥した砂塵の立舞ふのと山燒きの煙りで何處も充滿し無氣味の日々を過してるが就中砂地帶のパストス移住地各セツソンに昨今小兒間に痲疹とか疱瘡とが流行しつゝありファルマシアと病院は天手古舞してゐる

スイサ水力發電所

來る十一月愈々竣工

奥ソロの送電を一手で引受く

奥ソロの大發展地ブ・プルデンテ・ア・マツシヤード地方を中心に附近各地に送電するを目的として、豫て建設工事中のコンパニヤカイウアのスイサ水力發電所は着々進捗し愈々來る十一月中を以て竣工の豫定である、同發電所はリオ・ド・ペイシを堰止めダムの長さ百米突七十センチ一本を設け、二千二百馬力と千二百馬力のタービン式發電機二基を備へてる、尙同會社はパストス移住地管內の送電權利を獲得すべく、ブラ拓當事者と折衝中であるが、ブラ拓側は既設營業を喪失するので七百コントスの賠償權利金を要求して讓らず、目下双方間行惱んでる

特効藥の無い奇病

多數の醫師も匙をなぐ

ソロ線ブ・プルデンテ市郊外パラナ街道二十五キロ區に住む沖縄縣人某の妻女（三拾才）は一年半前渡伯、子女三人あり、數ケ月前より小便に異狀を來たし數人の外人醫師の診斷を受けたが、思はしくなく三週間前より內田ドトールの診療を受けつゝあるが、此奇態な患者はサンパウロ州內では割合稀れな珍らしい病氣で、乳び尿と稱し小水が出ると白い水は空氣に觸れて忽ちヒメ糊に似た蒟蒻狀態を呈し牛固體に固まつて仕舞ふ、別に內臟器管には差障りないが何しろ每日間隔的に熱が四〇度から出るので心臟を痛められ、身體は段々衰弱する許りである、羅病の原因は濕地に發生したフエラリヤ蚊に刺されクーレックスと云ふ厄介な原虫をうつされ、それが血液の中に侵入して繁殖して作用をおこすため起るので、晝間は無熱だが夜間殊に深更になると發熱四〇度に及び患者を惱ますので、對症療法として鹽酸キニーネを用ひてゐるが毫しも効果が見えず、目下のところ特效藥が見當らぬので不治と斷定されてゐる

汎アバレー青年聯盟

第三回辯論大會

ソロカバナ線アバレー驛第三回汎アバレー青年辯論大會は去る一日正午より汎アバレー青年聯盟主催でアバレー產業組合倉庫內で華々しく開催された、勝爾紺野委員長の開會の辭あつて、直ちに熱辯の火蓋は切つて落された、因に審査の結果入賞者次の如し

一等、黑崎泰一郞（サンタクルース）二等大田原幸一郞（アバレー）三等加藤正（東洋）四等野々垣末次郎（東洋）五等工藤弘（フロランテ）、六等大久保勝男（サンタクルース）、七等梅木良治（東洋）尙團體優勝は東洋青年會

豫定を急に變更し

佐藤氏けさ來聖

世界放送狀況視察の途にある、日本放送協會業務局國際部第一課長佐藤泰一郎氏は、來る廿五日來聖の豫定だつたが、急に豫定を變更けさ八時二十分ノルテ驛着のクルゼーロで來聖する事になつた

社告

九月三日附の貴信落手した今後の集金區域に關し至急面談の要あり直ぐ樣出聖あれ

一九四〇年九月六日

伯刺西爾時報社

久保田勝喜殿

松永壽保に告ぐ

家族心配し居るにつき至急居所を知らせよ

父

ビリグイで

馬泥棒橫行

ノロ線ビリグイ驛の各方面にわたつて馬泥棒橫行、その被害も相當な數に上つてゐたが去る八月三十一日同驛パライゾ植民地內に於て、中津丈吉氏方の馬二頭、井上和太郞氏の馬一頭を盜まれた、右は何れも價格一コント餘で直ちに搜査を行つたが判明せず、耕作多忙期の事でもあり、一般植民者はその豫防策に汲々としてゐる

馬車から轉落

車輛の下敷となる

パストス移住地カスカッタ區在住菅波氏の息子さん（十七）は例の如くカロッサに野菜や果物等を滿載して市街地へ賣りに出掛け、佐々木藥局の前を通りかゝつた時、馬が突然何ものかに驚き走り出したので慌てゝこれを制止せんとした處、どう過つたか馬車から轉落、アッといふ間に車輛の下敷となり、シタタカ腹部を轢かれ多量の吐血と同時に人事不省に陷つてしまつた、この騒ぎで附近の人々が駈付け直ちにイルネウ病院に擔ぎ込み應急手當を受け加療中であるが、目下のところ重態である

原因不明の怪火

製棉工場を一なめ

去る九月六日午后七時半サンルイス街マタラーゾ製綿工場より發火し乾燥の折柄とて棉に點火見る間に同工場倉庫一棟を烏有に歸し漸く九時半頃鎭火した

原因は汽車の煤煙からだと云ふ者もあれば工場の機關から失火したとも云はれ原因不明である此の附近は工場地帶なので一時は大混亂を極め怪我人も出來た由損害額概略二千コントス以上と云はる

蔬菜相場

九月九日

コチア產組調

	安値	高値
トマテエスペシアル	一三	一六
プリメーロ	一〇	一三
セグンド	八	一〇
レポーリオ	一五	二〇
ピメントン	一〇	一四
ページ	二〇	二五
エルビーリア	二八	三二
ポプリンニヨ	二五	三〇
ペピーノ	二四	二八

市街の悲哀

幸福とは市街と田舍に在るを不問本人自身の情態で定められるものだ。市街に在る者は田舍に在るを望み田舍に在る者は市街に在る事を望むのが人間の通例であるが田舍に在る者はノビノビした靜かな田舍の生活の利益を決して忘れてはならないのである。大都市に於ては實に多の神經精力を消費する。雜音街路の危險醒寤する事け全くたまらないものだ。故に適當の休養を攝らぬ者には悲哀だ。神經衰弱燐素不足倦怠感を訴へられる方は燐素藥品を使用する事だ。燐素藥品中のヌメロ一としてバイエルのトノフォスファンをお勸めする。トノフォスファンけ大人にも子供にも廣く使用され良好な結果を示してゐるものである。

求む
果樹園に働く
家族並・青少年
（但し婦人にても可）
セントラル線フエラス・デ・バスコンセーロ驛
ロマノポリス植民地
宇多賀敏次

輸出入通關手續
他州向貨物船積取扱ひ
M. FREIRE & CIA
Rua Libero Badaro, 595. Tel. 2-5954 - 2-4372 - 2-2209
仕事は迅速親切で長年の經驗を以て必ず御滿足の行く樣に御取扱ひ致します。
日本人諸氏の御用には特に邦人社員が居り御便宜を計つております

Liquidação Anual
お買物の絕好機
寶石、時計、クリスタル、ポルセラーナ、銀器類、メタル、ブロンズ
其他各種贈答品記念用品、家庭用品
奉仕的お値段
にて大賣出し中。ぜひ弊店地階第一第二室の陳列品をご覧下さい
FUNDADA EM 1887
CASA MICHEL
RUA 15 DE NOVEMBRO (ESQ. DA RUA QUITANDA)
A. FAMA

HOTEL MIYAKO
サントス港出帆
報國丸　九月廿日
りおでじやねいろ丸　十月十三日
大阪商船切符取次所
各國汽船會社切符取次所
歸國手續其ノ他一切
都ホテル
館主　西山盛
サンパウロ市ルア・イルマン・シンプリシアナ一五
電話　二-七四二五
サンパウロ　サントス間　自動車切符取次所（エスプレッソ・ルショ）

ASA BANCARIA BRATAC CASA BANCARIA BR
ATAC CASA BANCARIA BRATAC CASA BA
NCARIA BRATAC CASA BANCARIA BRATAC C
ASA BANCARIA BRATAC CASA BANCARIA
ブラタク銀行

ブラジル育ちの子供にはブラジル出來の立派な
子供の園
一冊三ミル、一年卅ミル
發行所　時報社

Redação - Rua Fagundes, 196
Telephone 7-4670
Caixa Postal H

Director M. Samesima

NOTICIAS DO BRASIL

Proprietario SEISAKU KUROISHI

Assignatura Anno . . . . 60$000
» Semestre . . 30$000
Numero de dia . . . 300 reis

Gerente S. Kuroishi
Redator-chefe M. Yendo

ANNO XXIII S. Paulo, — TERÇA FEIRA 10 de SETEMBRO de 1940 DIARIO No.2279

Edição Brasileira

Traducção dos artigos principaes em lingua japoneza

O accôrdo entre a França e o Japão, na Indo-China

CHANGAI, 7 (Domei) — Uma fonte chegada ás potencias do «eixo», geralmente bem informada, informou que o chanceller Adolpho Hitler ordenou ao governo de Vichy que accedesse ás exigencias formuladas pelos japonezes no tocante á Indo-China. Os nipponicos haviam assegurado que facilitariam o transporte de mercadorias allemans através o Pacifico, via Mandchukuo utilisando principalmente navios japonezes para as entregas á America do Sul.

Ao que se sabe, o embaixador allemão, sr Otto, garantiu ao governo de Tokio que as mercadorias germanicas seriam exclusivamente consignadas ao hemispherio occidental, accrescentando que a Allemanha não abrigava intenções de competir com o movimento commercial do Extremo Oriente.

Transpirou tambem que a Russia accedeu á solicitação feita no sentido de ser evitado todo e qualquer incidente na fronteira do Mandchukuo, durante o inverno.

O ACCÔRDO FRANCO-NIPPONICO

CHANGAI, 7 (Domei) — Correm rumores, em fontes autorisadas, de que foi assignado um accôrdo franco-britannico, pelo qual se autorisa a passagem de forças japonesas pelo territorio da Indo-China.

A ENTRADA DAS TROPAS NIPPNICAS

CHUNKING, 7 (Domei) — As ultimas informações recebidas pelos circulos militares chinezes desta cidade indicam que as tropas nipponicas pretendem marchar através da fronteira da provincia de Kuangsi, penetrando na Indo-China franceza por dois pontos. As autoridades militares chinezas fazem, por sua vez, os necessarios preparativos militares para o caso de uma possivel invasão nipponica da Indo-China. Aviões chineses estão sendo preparados e as tropas do marechal Chang-Kai Chek já se concentram nas vizinhanças.

'Presença do passado no Japão presente"

Perante numerosissima e selecta assistencia, sob o patrocinio do Centro Academico «XI de Agosto», da Sociedade Universitaria de Cultura e da Liga Estudantina de São Paulo, realizou-se um dia no auditorio da «Gazeta», a annunciada conferencia do academico Mario Romeu De Lucca, subordinada ao titulo: «Presença do passado no Japão presente».

Dirigiu os trabalhos o prof. Soares de Faria, director da Faculdade de Direito de São Paulo, fazendo parte da mesa como convidado de honra, o representante do sr. Secretario da Justiça, dr. Joaquim Ribeiro do Val e Neto; representante do sr. consul do Japão em São Paulo; Quintanilha Ribeiro, presidente do Centro «XI de Agosto»; Ruy Homem de Mello, presidente da Sociedade Universitaria de Cultura; Antonio Delorenzo Neto, director do Departamento de Cultura dessa entidade; Luis Maiani de Almeida, presidente da caravana que visitou o Japão; bacharelando João Hirata e Fernando José Fernandes, 1.º orador da Sociedade Universitaria de Cultura.

Abrindo a sessão, o prof. Soares de Faria deu a palavra ao primeiro orador inscripto, academico Delorenzo Neto, que saudou rapidamente em nome da Sociedade Universitaria de Cultura, o conferencista da noite. A seguir, os academicos Luis Maiani de Almeida, João Hirata e Fernando José Fernandes, tambem dirigiram palavras elogiosas ao academico Mario Romeu De Lucca, dizendo do grande prestigio que goza nos meios estudantinos da capital.

A CONFERENCIA

Cessadas as palmas que se seguiram as breves allocuções proferidas por seus collegas de Faculdade, o academico Mario Romeu De Lucca iniciou sua conferencia, dizendo da grande surpresa que se apossou de todos os que visitaram recentemente o Japão, quando viram surgir, como num deslumbramento, deante de seus olhos, a cidade de Tokio. «A idéa que faziamos daquella metropole era bem differente», — prosegue o orador. «No entanto, como a mais moderna das capitaes modernas do mundo occidental, — Tokio em nada fica a dever aos grandes centros do universo. Apresenta as mesmas ruas asphaltadas e largas, predios altos de linhas architectonicas impeccaveis». Continuando nas suas impressões sobre a interessante capital japoneza, o conferencista descreve, depois detalhadamente, o aspecto geral da cidade, resaltando os pontos pittorescos que a caracterizam constituindo a attracção de numerosos turistas que para ali affluem, afim de se deliciarem com os recantos sempre novos e bonitos que apresenta. Nesta altura — recorda ainda o mesmo espanto de que o grande marechal Joffre foi possuido, ao desembarcar, egualmente, após a guerra de 14-18, naquella capital, quando um mundo não completamente differente se lhe apresentava deante dos olhos deslumbrados, mas de certa maneira, original e rico.

Mais adeante, o sr. Mario Romeu De Lucca focaliza com muita felicidade e graça os costumes japoneses na sua inteireza, mostrando o tradicionalismo da raça amarella, que se conserva mesmo através dos tempos e das gerações, reflectindo-se nos factos mais comezinhos da vida social. «A psychologia do japonez — affirma — apesar do immenso progresso material do seu paiz, fructo quasi que exclusivamente da civilização occidental, continua inalteravel. As cidades evoluem, tomam côres novas e aspectos diversos, inteiramente differentes novas formas de governo vão surgindo, mas o mundo subjectivo parece ser ainda a projecção vigorosa das raizes de um passado de glorias».

Recordou, depois passagens interessantes da estada da comitiva no Japão onde encontrou sempre, da parte dos que a acompanharam nas multiplas visitas realizadas e da parte dos proprios habitantes, acolhida sympathica e carinhosa. Aqui, o orador tem palavras sinceras de agradecimento pela fidalguia da recepção.

Na ultima parte de sua conferencia, o academico Mario Romeu De Lucca, após fazer considerações de ordem sociologica e historica a respeito daquelle importante paiz, terminou dizendo que, ao sahirem os moços brasileiros de Kobe, levavam não sómente a saudade, mas tambem o reconhecimento profundo pelas licções que o Japão lhes ensinara, revelando-lhes horizontes inteiramente novos e preciosos. Sobretudo uma grande lição. «Porque é necessario — finaliza o conferencista, — que pelo menos uma vez se entre em contacto com uma nação verdadeiramente constituida e poderosa, para que se tenha mais arraigada a consciencia da nossa propria nacionalidade. E do confronto palpavel e evidente entre o paiz visitado e a terra de origem, que se estabelece o parallelo exacto da grandeza da terra em que se nasce».

Longa salva de palmas abafaram as ultimas palavras do conferencista, que foi depois muito cumprimentado pela numerosa assistencia.

COMPREENSÃO DO BRASIL

Ha muito vem sociólogos e economistas empenhando-se numa campanha em prol de soluções nacionais para questões brasileiras. O movimento é anterior a 1930. Convenhamos, porém, que esse ano marcou uma verdadeira época de florescimentos dos estudos brasileiros.

E evidente que a complexidade dêsses problemas não pode ser analizada em pouco mais de 10 anos. Estamos ainda no inicio desse estudo das fontes vivas do pensamento nacional, si o considerarmos em função da «duração» brasileira. Mas o impeto inicial não esmoreceu.

Ao contrario, nunca foi tão grande, como agora, o interêsse dos estudiosos em torno de nossas questões — das que constituem realmente «problemas vivos» do pais. E' que o atual regime anima essas pesquisas e se torna, porisso mesmo, o coordenador de todas as atividades da nova cultura brasileira. Inumeros fatos demonstram a afirmativa.

O Presidente Getulio Vargas já tem afirmado, repetidas vezes, que o Estado Brasileiro tem o dever iniludivel de prestigiar a ação de quantos se esforçam por analisar e perquirir, desde suas fontes remotas, as correntes subterrâneas da cultura nacional. Nem se compreenderia, de resto, que no mundo moderno — de feitio espiritual tão diverso — uma transformação politica, interessando á creação dum Estado, não fosse antes de tudo, corolário de um movimento do espirito e da inteligencia.

Estamos, como se diz, no caminho certo. Causou-nos sempre os maiores danos o divórcio da chamada inteligência nacional e de nossas instituições politicas. Verdade é que, de modo geral, as antigas instituições eram inimigas dos valores da inteligencia. Os bonzos das situações adoptavam diante do intelectual duas atitudes tipicas e exclusivas; ou «desprezavam» a inteligencia — naturalmente por considera-la acima das realidades e fora dos tempos... — ou se valiam dela para finalidades interessando a meia duzia de cidadãos que desejavam dirigir os destinos do pais. Nunca houve, porém, entre nós um movimento que, tocado de idealismo e de sinceridade, tentasse aproximar a inteligencia do Estado.

Hoje que isso acontece, os frutos dessa aproximação sadia ressaltam nitidos. Há um enorme interêsse pelas coisas do Brasil. Há um grupo de brasileiros de boa vontade, ansiosos por valorizar, através do estudo e do pensamento, os problemas que a civilização e a cultura crearam nessa porção do continente americano.

O fato é auspicioso. Se encetarmos a construção do verdadeiro Brasil, é óbvio que o queiramos fazer ajudados pela força da inteligencia que — num mundo caótico e instavel — é ainda o unico sinal de luz, uma ilha e capaz de prometer ao homem perplexo uma crença desesperada em si mesmo...

LEIA O NOSSO

KODOMO NO SONO

Suplemento do jornal "Noticias do Brasil"

NOTICIARIO ESTRANGEIRO DO «NOTICIAS DO BRASIL» FORNECIDO PELA AGENCIA TELEGRAPHICA «DOMEI» JAPONEZA

農業

棉に肥料を使ふには

商賣人の口車に乘らず正確な根本を摑むべし

棉作りは意外に土地があれるものだと、流石呑氣な伯人耕主連にも氣がついたらしく昨今頻りに肥料の話が彼等の間に持ち上つてゐる、農家と肥料はつきものであるが今更問題化するところが伯國氣質で面白い、我等の同胞間にも近頃似たようなことが時々話題に上るようでもある、時節柄肥料を題目に採り上げて見る

"話を" 簡單にするためにアルケール當り二百アローバの實棉收穫を目標にするこの程度の收量を擧げるためにはその生產物量は大體次の通り

	キロ
綿	一、二五〇
種	二、五〇〇
莖葉	五、〇〇〇

これだけの生產物を出すために所謂肥料三要素を地中から吸ひ上げ、畑の外へ持ち出したり、又は燒き棄てゝ空氣に還元したりする分量はざつと次の數字になる

要素	キロ
窒素	九二、〇〇〇
燐酸	三七、〇六〇
加里	五五、九四〇

となり、毎年これだけの要分を

"畑に" 何かの形で戻してやることにすれば、何年棉を作ろうとも計算通り二百アローバの實棉を續けて穫れることになる筈である、尤も表土を流したり、酸性を強めたり病虫害を放置したり、有機分を無くしたり、等々の下手をやると、この限りでは無いが計算から言へば正に上記の結論となるわけであるこの計算には未だ大きな穴が開けてある曰く全然土の中に肥料分が無いものとしての計算である

"實際" 問題として新開地では數年間は一切肥料無く、然も或る程度の收穫があるこれは明かに土中には充分肥料があることを有體に物語るものであつて、肥料分が充分ある所へは肥料を與へても作物は充分利用出來ない、昨年はどうも思ふ程棉が出來なかつたと言つた風な土地になつて初めて、肥料も働くし又その金も生ることゝなる、又最初に記したように

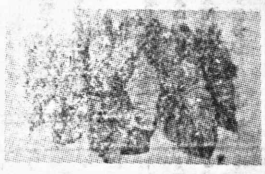
"年々" 作物と共に持ち出す肥料分は相當量で、それだけ畑からは地力が減少するから、三年位も經過すれば土地の分析をやつて新しい肥料を與へる處方を作る必要がある

棉に所要の全肥料分を市販品で換算すると次の通り

硫安	五〇〇キロ
骨粉	二〇〇キロ
硫酸加里	一〇〇キロ

程度となり一般に想像してみる程には入用ではない、右の內骨粉は分解が緩やかだから五〇〇キロ、乃至一〇〇〇キロ位が普通に使用されてゐる、骨粉は土地の酸性と、硫安の酸性を消すためにも非常に有効な品で、新地ならば骨粉だけでも相當以上の成績を收める、**棉作りに骨粉は最上等**の肥しと言つても過言ではない

伯國名產 カラヂウム



日本では溫室物として珍重するが、此處伯國では原產地だけに何處でも至極易容く作つて樂しめる、伯國での通稱はチニョロンと言ふ。

日本の里芋と親類筋に當り、大方は北伯の濕地が原產地である、尤も中には朝から晩までカン〳〵日が照る所でも平氣な異端者もある、伯國原產品種だけでも廿五種あり、ズイキ芋大のものから小は小さい鉢植えにも適するものまであり、園藝品種に至つては無數に近い程澤山あり、色とり〳〵の葉が長い間樂しめるもので、日蔭の室內でも充分育ち鉢植え、日蔭用としても面白い、九月中が種芋植に最良時季で、良く腐つたエステルコ一に輕い土二の割合で植込めば後は至つて雜作は無い、水は切らすと葉が枯れる、大きな芋からは時に不景氣な花をつけることがある、これが種取り、實生も伯國にして初めて出來る樂しみの一つ

農經

熱帶林の經濟價 思ひの他に駄目

伯國の大部分は熱帶に屬し、廣大なる林地を有することは周知の事實である專門家の調査によると大木の種類だけでも實に四万以上も知られてゐ、その內貴重な材を提供する樹種も多數に達することも亦說明の必要のないところである、然し經濟的の觀點からして、伯國の廣大無邊に近い林地が、果して有利に林木を生產し得る對照をなすか否かは相當問題であるこの根據を數字で示すと次の通り

生產州名	林產コント
アマゾーナ	五、七二五
パラー	八、二一二
エ・サント	三、〇〇九
聖州	二、五六二
パラナー	二四、八三三
サ・カタリーナ	三九、三三九
南大河	二五、二八二
マットグロッソ	五一九

とアマゾン流域は最も產額がありそうであつて然らず、南部の三州が斷然群へてゐるのは一見意外の感が無いでもない、その理由は次の通り、大體熱帶林の特長は數百種類に上る樹種が雜然と混合林を作つてゐる。惡く謂へば雜木林である、近代商品學第一課商品を揃へる上には多大の不便があるわけである、例へばセードロ材を百本揃へるためにはアッチで一本、此處で一本と仲々以つて埒が明かない、如何に貴重材でもスピード、大量生產時代には、パラナ松林が見渡す限り續いてゐる地方の方が總てに林業開發上には好都合となるわけである、最近聖州にユーカリ植林が盛大に流行してゐる原因も品を揃へる意味からも大いに意義がある、例をレニャに取ると滿七年物ユーカリ、サリグナ種ならアルケール當り一千五百立方米突も取れるが、原始林なら六、七百米突がところしか取れない、その優劣は一目瞭然である、尙その上にユーカリ林は全部品物が一手に揃ふが原始林のそれば一本々々品が違ふとあつては、熱帶の椰子林も台なしである、經濟原則は飽まで冷徹を極めてゐる

早魃と植木 灌水の仕方

第一に氣溫の高い伯國で注意すべきは、汲み立ての水は作物が喜ぶより有害です、そこで成る可く日中に汲んで置いて、日向水とし、水溫が充分上つたものを夕方に灌水してやるのが宜い、又毎朝晩サット撒くよりも、三日に一度位ゐに地下三寸までも充分濕る程度に與へる方が効が多いです。

一方埃で葉がいためられると呼吸困難になりますから、これも三日に一度位い灌水のつい手に葉を充分洗つてやるとよろしい。

木物は少々葉が枯れ始めても根がしつかりしてさへゐれば大抵大丈夫ですが、草物は特別疾に弱いから、葉の色が少しでも變つて來れば危險信號と心得て、葉色に氣をつけ乍ら灌水して頂きたいものです

農家便覽

△北米のミリヨ第二回豫想は二十二億五千万ブッシェル、稍良といふところ

夏小麥は二億一千六百万ブッシェル、昨年は一億九千二百万だつたから相當豐收である

△リオ州低地殖民地には今後伊西、獨、日諸國民を入れると決定した、他の人種は落着かず、作物も作らぬから駄目と散々

世紀の英雄

（禁無斷上映上演）

香 伸二

夏目 [illegible]

(二十二)

レビュ皇軍行進（三）

他人の秘密を覗きみでもしてゐたやうな氣がして達夫ははつとしながら顏をあげると其處には牧が立つてゐるのだ

「君か」「君かつて、一體何してたんだい？」

「君の妻君の月給袋が僕の足にくらひついたもんだから追拂つてゐたんだよ」

「なんでえ。僕はまた五十錢玉の一つも落ちてゐたかと思つてゐたよ。それより早く何處かへ行かうぢやないか。此處にゐると」

達夫は一刻も早く鐵子から逃れやうとしてゐるそのあわてゝ振りをみると、日頃氣取つてゐる假だけにおかしかつたわざと落ついてやりたいやうな氣になつて

「妻君が怖いんだろ。餘り僕をだしにつかふなよ。殊に餞別なんて出征詐欺はおだやかぢや無い」「あれつ、もう知つてゐるのか」

知つてゐるのかつて、やるならやるで初めつから事を明かしてゐてくれよ。こつちがあわてゝしまふぢやないか」

「お鐵の奴、むくれてゐたかい？」

早足で歩きながら眞底から怖さうに牧はさう言つた

「あゝ、相當だね。今夜あたりは思ひやられるよ」

「おどかすない」

駄々つ兒のやうに牧は言つて、一時にね例の。――借金な、今月はゲエ（五圓）だけで勘辨してくれよ」

「あゝ、だから妻君には五円か貸してありませんて言つておいたよ」「濟まない」

牧と達夫は劇場の前の橋の上にかゝつた。下には黑い川面に、それでも初夏の星が二つ三つ風に吹かれながらその姿を寫してゐた。牧はそれを見ると急に改まつた調子で、

「岩田君」

と假の姓を呼んだ

「何だい。改まつて」

「別に改まつたわけぢやないが、たゞから言ひたかつたんだ。明日から又新らしく入つた踊子が來るんだつてな。今度は前よりはいゝ子が來るんだらうな」

達夫はあきれて眞面目くさつた牧の顏をみてゐたが

「いゝつて？ 顏かい。氣持ちかい」

「顏は勿論、それに身體がよくなくつちや」

「君らしい注文だね」

「あゝ。それに僕は伊藤デパートでも可愛い子を發見して來たんだ。今度案內するよ」

平氣でさう答へる牧の押しの強さに達夫は最初どうかしてゐるのぢやないかと思つたが、又一寸羨ましい氣もした

「音樂部の色男を一人で脊負つたやうな事を言ふなよ」

「なら君は聖人でございつてな顏をするなよ」

とたんに言ひかへした言葉何處かぬけた所のあるやうに相手から辛辣な言葉に達夫はぎよつとした

「別に聖人振るわけぢやないよ。僕だつて女の子は好きだ」

「さうだろ。それならもう少しやれよ。君だつてやれば出來るんだぜ。女の子なんて一押二押三押だよ。街あけみねあの子は舞台の隙な時、何時でもボックスの君を見てゐるぜ。初め僕かと思つてゐたら大間違ひよ。視線は僕を超へて後の君なのだ。歌の練習の時、見ろよ。あいつ、君のそばへばかり行くぢやないか。早くものにしろよ。なんなら僕の部屋を安く貸すがね。その點僕の所みたいなアパートはうるさくなくていゝよ」

達夫はあけみのとゝのつた肉體が瞬間頭に浮んだが、うつかり赫くにでもなつたら牧の宣傳がうるさいと思つて極めて平然と、「あゝ、何時かお願ひするよ」と言つた。

街あけみは大和智律子と共にこゝの大スターであつた。

時報商事部

時報支社 地方取次所
（Lins - P. Com. Salgado, 144
Marilia - R. Paes Leme, 306
P. Prudente - R. Ruy Barbosa, 70）

夏が近づきました
蚊帳の御用意

【1】子供用（一米六〇センチー高六〇センチ） 一枚 十七軒
特徵：室內、野外兼用、日本蚊帳布地で丈夫で輕便
【2】一人寢台用（高二米、巾二五センチ、丈一米半） 五十軒
【3】カザード用 一枚 六十軒
【4】純日本式蚊帳（日本蚊帳布地）
二人用六十軒、三人用七十軒、四人用八十軒
五人用九十軒。以上一人に十軒增し

今年 雨期には
勞動用雨カッパを御奬めする

此の雨カッパは母國の漁夫が着る支那油塗製法で全然雨が通りません
又風通しがよく勞働に輕便です
一枚（A號） 五十軒 丈一米一〇
B號 丈 一米二〇 五十五軒
●通學用子供の雨カッパ
丈一米內外（注文により） 一枚 四十五軒
布地は丈夫のブリンカキ油塗

伯國大阪商船會社

リオ WILSON, SONS & CO. LTD.
Avenida Rio Branco 37 Rio de Janeiro

聖市 伯剌西爾大阪商船會社出張所
(Soc. de Navegação Osaka do Brasil Ltda)
Filial de São Paulo
Rua da Quitanda 82 - São Paulo

サントス 伯剌西爾大阪商船株式會社
(Soc. de Navegação Osaka do Brasil Ltda)
Rua Cidade de Toledo, 31 Santos

詳細は弊社又は左記代理店へ

發着廣告

日本へ
あるぜんちな丸 サントス發 九月五日 橫濱着 十月十三日
はわい丸 サントス發 九月四日 神戸着 十一月一日

日本より
ぶえのすあいれす丸（パナマ經由） 神戸發 八月十三日 サントス着 九月廿七日
はわい丸 神戸發 六月廿三日 サントス着 九月二日

Dr. Alarico Franco Caiuby
ADVOGADO E
Tsuguo Kishimoto
TRADUTOR PUBLICO
Escritorio: R. José Bonifacio, 233
3.o and. salas 310/312 - Tel. 2-1137
C. P. 1124 São Paulo

法律一般
飜譯
岸本 アラリコ 法律事務所
公證飜譯人 岸本次男
顧問 アラリコ・フランコ・カユビー
事務所 聖市ジョゼ・ボニファシオ街二三三番 三階三一〇―三一二號室
郵函一一二四 電話二―一一三七